

第31期 中間

2006.3.1.~2006.8.31.  
株式会社ピクルスコーポレーション

## 株主通信

## Memo

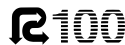
株主メモ

事業年度	3月1日から翌年2月末日まで		
定時株主総会	毎年5月中		
基準日	定時株主総会の議決権	2月末日	
	期末配当金	2月末日	
	中間配当金	8月31日	
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社		
同事務取扱場所	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店		
郵便物送付先 お問い合わせ先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行事務センター ☎ 0120-78-2031 (フリーダイヤル)		
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店、全国各支店		
公告の方法	日本経済新聞		
単元株式数	1,000株		

最新のIR情報はホームページにも掲載しています

URL <http://www.pickles.co.jp>

株式会社ピクルスコーポレーション

〒359-0037  
埼玉県所沢市くすのき台3丁目18番地の3  
TEL 04-2998-7771 (代表)  
FAX 04-2998-7776

この株主通信は、環境への配慮のためVOC(揮発性有機化合物)を使用しない大豆油のインクおよび再生紙を使用しています。

野菜の元気をお届けします。  
**PICKLES**  
New Traditional Taste



New Products



和キムチ



叙々苑キムチ



白菜キムチ



ピリッ辛ごま大根



ピリッ辛ごま白菜



ピリッ辛ごまキムチ



カレーライス用福神漬



ミスターわりぼし



スパイシーキムチ

Contents

株主の皆様へ	1	連結財務諸表	8
社長インタビュー		個別財務諸表	10
営業の概況と今後の戦略・展望	2	株式情報	11
特集		会社情報	12
ビックルスの製品開発	4	野菜の可能性を訪ねて 〈キャベツ〉	13
財務ハイライト	6		

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。当社の中間連結決算について概要をご説明申し上げます。

当中間期におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善などが見られ、回復基調にあります。しかしながら、漬物業界は、商品販売単価の下落傾向が継続しており、食品衛生法改正による残留農薬のポジティブリスト制導入など、企業の負担が益々増大しております。

このような状況のもと、当社グループは、全国の製造・販売拠点を活用した積極的な新規得意先の開拓と、既存取引先への拡販を実施いたしました。

製品面では、高級焼肉専門店(株)叙々苑と共同開発した「叙々苑キムチ」を5月より販売開始し、新規大手量販店への販路を開拓するなど、好調に推移いたしました。また、「ピリッ辛ごま白菜」の全国展開、量販店の惣菜売場への展開にも力を注いでまいりました。品質・衛生管理面では、4月にISO9001キックオフミーティングを開催し、来年の認証取得を目指した取り組みを開始しました。また、HACCPについては、工場別の認定を推進しました。グループ事業再編につきましては、グループの保有資産の見直しなどを行いました。

以上の取り組みの結果、売上高は85億98百万円(前年同期比3.3%増)、経常利益は1億35百万円(同0.8%減)、そして、中間純利益は1億1百万円となりました。

下期につきましては、引き続き全国ネットワークを活かした営業展開を進め、既存得意先への拡販、新規得意先の開拓を進めるとともに、製品開発に力を注いでまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。



代表取締役社長 萩野 芳朗

## 全国をつなげる 生産・物流体制で、 オンリーワンの企業に

現在の状況と今後の課題について、  
代表取締役社長・荻野芳朗がお話いたします。



### 現在の状況

#### 寡占化の一途を辿る 漬物業界で 全国ネットワークを活かし 成長を

現在の漬物業界は、依然として寡占化の一途を辿っています。市場規模もやや縮小気味で、厳しい状況が続いています。

そのような中、当社は業界で唯一、全国に生産・物流体制を持つ企業です。その強みを活かして、大手CVS、大手量販店の需要に柔軟に対応しております。そして、各取引先のニーズにあわせた製品開発、ベンダー機能を活かした量販店の漬物売場全体の提案等により、売上確保につながっています。おかげさまで、地方の量販店を中心に、新規取引先も順調に増えてきました。

また、不採算部門の東北地区、中京地区、子会社(株)八幡屋については、積極的な拡販や生産・物流体制の再構築等の効果により、順調に改善が進んでおります。

### 自社商品の展開

#### 異業種との連携や 地域密着型の商品展開を

(株)叙々苑と共同開発した国産キムチ「叙々苑キムチ」は5月の発売以来、大変好評をいただいています。

当初首都圏のみで販売の予定でしたが、現在、販売地区も広がっております。これは、「本格焼肉専門店の味をご家庭で」というコンセプトが消費者の皆様へ受け入れられたものと考えています。

また、東北地区をはじめとした地場野菜製品の販売も好調です。これは、各工場が近隣の契約農家から直接仕入れた野菜を製品にして、周辺の量販店等に販売していくものです。「顔の見える商品」として好調な地場野菜製品は、今後もさらに全国で広げていきます。

### 安心、安全を求めて

#### ISO9001とHACCP、 二本柱で安全、安心を確保

事業を支える大きな柱である「安全、安心」のため、ISO9001認証取得と日本デリカフーズ協同組合\*独自のHACCP認定を推進しています。ISO9001は2007年6月の取得を目指して活動を進めてまいります。HACCP認定に関しては、9月に大宮ファクトリーが当社で初めて認定を受け、今後も認定工場を拡大していきます。

\*日本デリカフーズ協同組合：株式会社セブン・イレブン・ジャパンに販売する弁当・惣菜メーカー等が加入。品質管理に関する情報共有、原材料や設備の共同購入等を実施。

### 今後の課題

#### さらなる発展に向けて 販売、研究機能強化を推進

今後は、全国の生産・物流拠点をフル活用し、既存得意先への拡販、新規取引先の開拓を行うとともに、量販店の惣菜部門への展開を進めていきます。そして、惣菜製品を含めた自社製品の充実や契約栽培によるさらなる原料調達安定に取り組めます。

また、5月に新設した研究棟では、新製品および製品品質向上のための研究を進めています。今後は、研究設備の充実、人員の強化を推進し、より一層の研究機能強化をはかります。

## 製品開発の現場から

ピクルスでは製品開発活動を強化し、特色のある製品が増えてきています。今回はその一例を紹介し、製品導入の狙いや開発時の苦労、市場からの反応などをご報告します。

### そのままの味を再現する難しさ 「叙々苑キムチ」



「本格焼肉専門店の味をご家庭で」というコンセプトで好評をいただいている叙々苑キムチ。実は製品開発をはじめから発売開始までに1年半かかっています。

開発の中で一番苦労したのは、品質保持です。キムチは発酵食品なので、日が経つにつれて酸味が増し、味がどんどん変化していきます。通常のキムチはpHを調整し発酵をコントロールしますが、叙々苑キムチはそのコンセプトを実現するべく、調味料などの原材料や製造工程をお店のキムチと同じにしたため、発酵のコントロールが非常に難しい課題となっていました。

どのように発酵が行われるのか、キムチの変化が保管温度帯と時間のパターンによってどのように変わるか、開発段階では何十回も繰り返しテストを行いました。

その後も、当社の工場で製造に必要な機械の調整など課題を解決し、4月に(株)叙々苑と共同で製品発表会を実施し、5月より発売しています。



叙々苑キムチ製品発表会の様子

毎年さらなるおいしさを求めて

### 「おでん大根」



おでん大根は製造開始から4年が経ちますが、毎年改善を重ねています。

原料面では、各大根産地の生育状況をデータベースに蓄積。季節ごとにおでんに最適な大根を調達しています。製造工程では、昨年から隠し包丁の工程をプラス。味染みをよくし、硬さを均一にできるようになりました。また、調味も毎年リニューアルされるおでんつゆに合わせて変更をしています。

おかげさまでお客様から高い評価をいただいています。

地元だから親しみがわく

### 「地場野菜製品」



「地産地消」が食のキーワードとなる中、地域の特色を押し出した商品として地場野菜製品が生まれました。地元の野菜をアピールし、地域の人が親しみを持てる商品であること、トレーサビリティがとれ、安全・安心を確保できることがポイントです。

とくに、仙台長茄子、大福白菜など地場野菜の種類の多い東北地区においては、お客様より好評をいただいています。

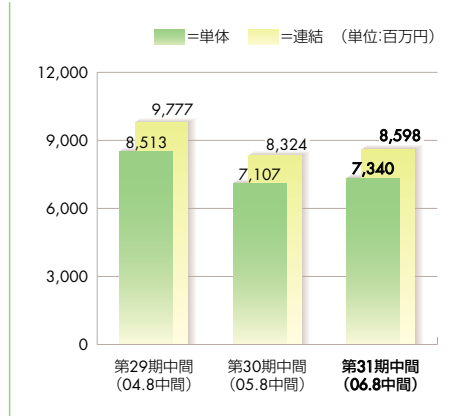
認知度が飛躍的に向上

### 「ガンバ大阪製品」

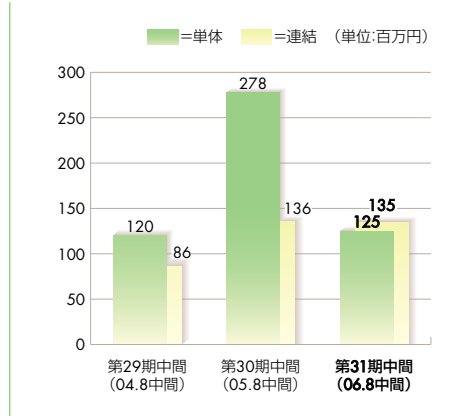


子会社の(株)彩旬館では、企業認知度の向上、既存取引先への売上高拡大、新規取引先の獲得を目的として、地元のJリーグチーム「ガンバ大阪」とスポンサー契約を締結しました。そして、ガンバ大阪のロゴマークを使用した福神漬、キムチ、ピリッごま白菜などの製品を開発しました。これらの導入より、量販店など店頭での商品差別化を図ることができました。

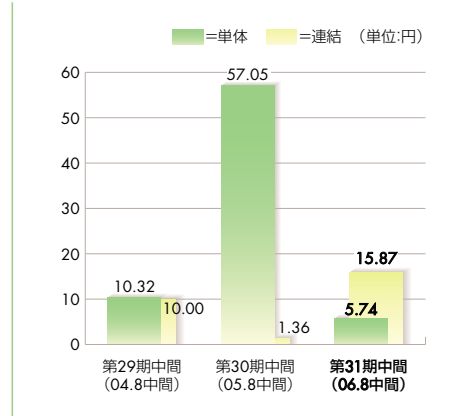
●売上高



●経常利益



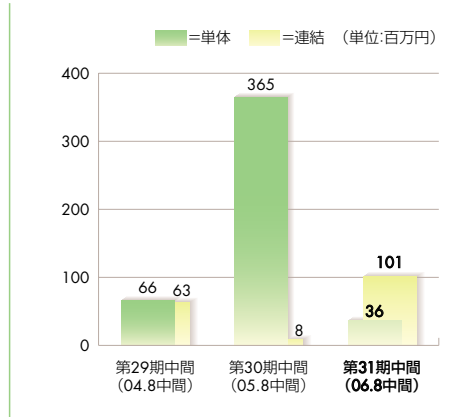
●1株当たり中間純利益



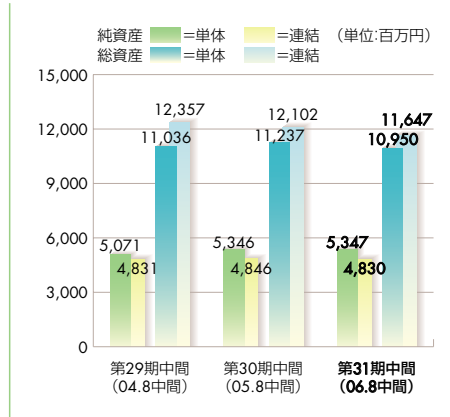
●主な連結経営指標等の推移 (単位:百万円)

決算年月	05.8中間	06.8中間	05.2	06.2
会計期間	05.3.1~05.8.31	06.3.1~06.8.31	04.3.1~05.2.28	05.3.1~06.2.28
売上高	8,324	8,598	18,186	16,563
経常利益	136	135	146	205
中間(当期)純利益	8	101	144	△37
純資産	4,846	4,830	4,911	4,822
総資産	12,102	11,647	11,902	11,486
1株当たり純資産 (単位:円)	757.65	755.13	765.21	751.63
1株当たり中間(当期)純利益(単位:円)	1.36	15.87	20.14	△8.17

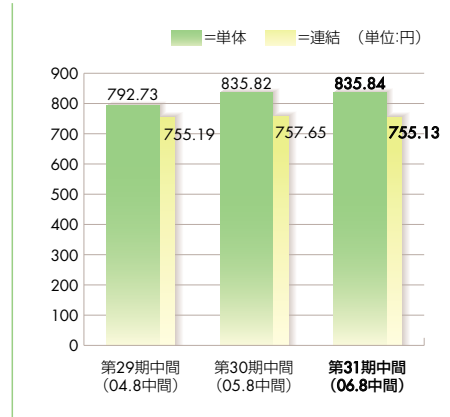
●中間純利益



●純資産/総資産



●1株当たり純資産



●主な単体経営指標等の推移 (単位:百万円)

決算年月	05.8中間	06.8中間	05.2	06.2
会計期間	05.3.1~05.8.31	06.3.1~06.8.31	04.3.1~05.2.28	05.3.1~06.2.28
売上高	7,107	7,340	15,701	14,275
経常利益	278	125	200	395
中間(当期)純利益	365	36	138	401
純資産	5,346	5,347	5,056	5,399
総資産	11,237	10,950	10,596	10,843
1株当たり純資産 (単位:円)	835.82	835.84	788.62	841.83
1株当たり中間(当期)純利益(単位:円)	57.05	5.74	19.85	60.46

●連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

	前中間期 (2005年8月31日現在)	当中間期 (2006年8月31日現在)	前期 (2005年2月28日現在)
<b>●資産の部</b>			
流動資産	<b>2,754,033</b>	<b>2,850,708</b>	<b>2,253,488</b>
現金及び預金	703,542	665,383	402,476
受取手形及び売掛金	1,718,705	1,855,228	1,539,652
たな卸資産	256,393	257,467	230,748
その他	83,927	75,650	89,145
貸倒引当金	△8,535	△3,022	△8,535
固定資産	<b>9,348,498</b>	<b>8,797,003</b>	<b>9,233,054</b>
有形固定資産	<b>8,459,918</b>	<b>7,890,631</b>	<b>8,322,280</b>
建物及び構築物	2,118,540	1,961,723	2,023,447
機械装置及び運搬具	657,214	584,703	603,856
土地	5,656,270	5,313,740	5,656,270
その他	27,893	30,464	38,706
無形固定資産	<b>54,740</b>	<b>42,444</b>	<b>45,432</b>
投資その他の資産	<b>833,839</b>	<b>863,927</b>	<b>865,341</b>
その他	1,036,233	1,071,755	1,067,735
貸倒引当金	△202,394	△207,828	△202,394
資産合計	<b>12,102,531</b>	<b>11,647,712</b>	<b>11,486,542</b>

●負債の部

	前中間期 (2005年8月31日現在)	当中間期 (2006年8月31日現在)	前期 (2005年2月28日現在)
流動負債	<b>4,448,754</b>	<b>4,291,641</b>	<b>3,880,186</b>
支払手形及び買掛金	1,579,667	1,755,989	1,365,430
短期借入金	2,051,568	1,439,195	1,302,895
1年以内償還予定の社債	—	500,000	500,000
未払法人税等	167,153	66,818	228,499
賞与引当金	74,558	79,093	71,721
その他	575,807	450,544	411,640
固定負債	<b>2,806,907</b>	<b>2,525,306</b>	<b>2,783,709</b>
社債	500,000	—	—
長期借入金	1,369,351	1,656,556	1,849,840
退職給付引当金	129,602	155,860	136,563
役員退職慰労引当金	68,021	78,351	72,572
繰延税金負債	69,686	—	69,686
連結調整勘定	667,988	631,197	649,593
その他	2,258	3,341	5,454
負債合計	<b>7,255,662</b>	<b>6,816,948</b>	<b>6,663,895</b>
<b>●純資産の部</b>			
株主資本	<b>4,816,903</b>	<b>4,793,465</b>	<b>4,770,178</b>
資本金	740,900	740,900	740,900
資本剰余金	669,100	669,100	669,100
利益剰余金	3,407,281	3,383,844	3,360,557
自己株式	△378	△378	△378
評価・換算差額等	<b>29,966</b>	<b>37,298</b>	<b>52,467</b>
その他有価証券評価差額金	29,966	37,298	52,467
純資産合計	<b>4,846,869</b>	<b>4,830,764</b>	<b>4,822,646</b>
負債純資産合計	<b>12,102,531</b>	<b>11,647,712</b>	<b>11,486,542</b>

前中間期、前期「資本の部」は、「純資産の部」に置きかえて表示。

●連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

	前中間期 (2005年3月1日から 2005年8月31日まで)	当中間期 (2006年3月1日から 2006年8月31日まで)	前期 (2005年3月1日から 2005年2月28日まで)
売上高	<b>8,324,063</b>	<b>8,598,645</b>	<b>16,563,275</b>
売上原価	6,694,001	6,938,847	13,379,819
売上総利益	<b>1,630,062</b>	<b>1,659,798</b>	<b>3,183,455</b>
販売費及び一般管理費	1,536,663	1,564,577	3,025,133
営業利益	<b>93,399</b>	<b>95,220</b>	<b>158,322</b>
営業外収益	68,957	62,316	105,905
営業外費用	26,108	22,350	58,848
経常利益	<b>136,247</b>	<b>135,186</b>	<b>205,378</b>
特別利益	98,680	69,509	98,680
特別損失	123,485	107,964	178,264
税金等調整前中間(当期)純利益	<b>111,443</b>	<b>96,731</b>	<b>125,795</b>
法人税、住民税及び事業税	<b>187,407</b>	<b>67,515</b>	<b>269,405</b>
過年度法人税、住民税及び事業税	<b>21,110</b>	—	<b>23,449</b>
法人税等調整額	△105,830	△72,342	△129,091
中間純利益又は当期純損失(△)	<b>8,755</b>	<b>101,558</b>	<b>△37,968</b>

●連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

	前中間期 (2005年3月1日から 2005年8月31日まで)	当中間期 (2006年3月1日から 2006年8月31日まで)	前期 (2005年3月1日から 2005年2月28日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	<b>337,329</b>	<b>175,709</b>	<b>519,066</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	<b>107,980</b>	<b>207,919</b>	<b>△106,636</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	<b>△229,298</b>	<b>△120,721</b>	<b>△497,482</b>
現金及び現金同等物の増減額	<b>216,012</b>	<b>262,906</b>	<b>△85,053</b>
現金及び現金同等物の期首残高	<b>483,274</b>	<b>402,476</b>	<b>483,274</b>
新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	<b>4,255</b>	—	<b>4,255</b>
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	<b>703,542</b>	<b>665,383</b>	<b>402,476</b>

●連結株主資本等変動計算書(要旨)

(単位:千円)

	株主資本					評価・換算差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
2006年2月28日残高	<b>740,900</b>	<b>669,100</b>	<b>3,360,557</b>	<b>△378</b>	<b>4,770,178</b>	<b>52,467</b>	<b>4,822,646</b>
中間連結会計期間中の変動額	—	—	—	—	—	—	—
剰余金の配当	—	—	△63,972	—	△63,972	—	△63,972
利益処分による役員賞与	—	—	△14,300	—	△14,300	—	△14,300
中間純利益	—	—	101,558	—	101,558	—	101,558
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△15,169	△15,169
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	<b>23,286</b>	—	<b>23,286</b>	<b>△15,169</b>	<b>8,118</b>
2006年8月31日残高	<b>740,900</b>	<b>669,100</b>	<b>3,383,844</b>	<b>△378</b>	<b>4,793,465</b>	<b>37,298</b>	<b>4,830,764</b>

(注)記載金額は千円未満を切り捨てております。

● 単体貸借対照表 (要旨)

(単位:千円)

	前中間期 (2005年8月31日現在)	当中間期 (2006年8月31日現在)	前期 (2005年2月28日現在)
<b>● 資産の部</b>			
流動資産	2,401,796	2,311,060	2,096,745
固定資産	8,835,687	8,639,779	8,746,370
有形固定資産	7,841,737	7,626,092	7,731,114
無形固定資産	35,809	32,355	31,702
投資その他の資産	958,139	981,332	983,553
資産合計	11,237,484	10,950,840	10,843,115
<b>● 負債の部</b>			
流動負債	3,945,798	3,797,453	3,488,209
固定負債	1,944,724	1,806,304	1,955,244
負債合計	5,890,522	5,603,758	5,443,453
<b>● 純資産の部</b>			
株主資本	5,323,752	5,318,314	5,359,845
資本金	740,900	740,900	740,900
資本剰余金	707,674	707,674	707,674
利益剰余金	3,875,556	3,870,119	3,911,650
自己株式	△378	△378	△378
評価・換算差額等	23,208	28,767	39,815
その他有価証券評価差額金	23,208	28,767	39,815
純資産合計	5,346,961	5,347,082	5,399,661
負債純資産合計	11,237,484	10,950,840	10,843,115

前中間期、前期「資本の部」は、「純資産の部」に置きかえて表示。

● 単体損益計算書 (要旨)

(単位:千円)

	前中間期 (2005年3月1日から 2005年8月31日まで)	当中間期 (2005年3月1日から 2006年8月31日まで)	前期 (2005年3月1日から 2006年2月28日まで)
売上高	7,107,425	7,340,354	14,275,460
売上原価	5,743,433	5,957,715	11,565,383
売上総利益	1,363,991	1,382,639	2,710,077
販売費及び一般管理費	1,237,197	1,276,508	2,457,931
営業利益	126,794	106,131	252,145
営業外収益	184,442	48,847	211,687
営業外費用	33,116	29,090	68,027
経常利益	278,119	125,887	395,806
特別利益	355,590	144	355,590
特別損失	88,016	55,488	98,046
税引前中間(当期)純利益	545,694	70,544	653,350
法人税、住民税及び事業税	184,331	35,121	268,424
過年度法人税、住民税及び事業税	21,110	—	20,841
法人税等調整額	△24,755	△1,317	△37,016
中間(当期)純利益	365,007	36,741	401,100
前期繰越利益	1,421,279	—	1,421,279
中間(当期)未処分利益	1,786,287	—	1,822,380

● 株式の状況 (2006年8月31日現在)

発行可能株式総数	23,592,000株
発行済株式の総数	6,398,000株
株主数	478人

● 大株主の状況 (2006年8月31日現在)

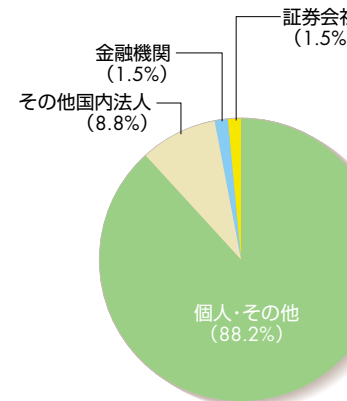
	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
東海漬物株式会社	3,178,200	49.67
荻野芳朗	227,500	3.55
株式会社埼玉りそな銀行	183,000	2.86
株式会社みずほ銀行	180,000	2.81
ピックルスコーポレーション従業員持株会	163,980	2.56
株式会社セブノーイレブン・ジャパン	140,000	2.18
長田ヒデ子	102,000	1.59

● 単体株主資本等変動計算書 (要旨)

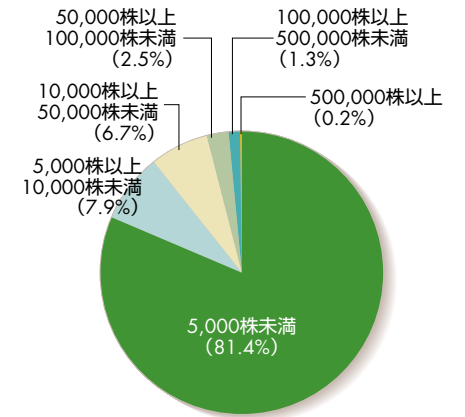
(単位:千円)

	株主資本				株主資本合計	評価・換算 差額等	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式			
2006年2月28日残高	740,900	707,674	3,911,650	△378	5,359,845	39,815	5,399,661
中間会計期間中の変動額							
剰余金の配当			△63,972		△63,972		△63,972
利益処分による役員賞与			△14,300		△14,300		△14,300
中間純利益			36,741		36,741		36,741
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)					—	△11,047	△11,047
中間会計期間中の変動額合計	—	—	△41,530	—	△41,530	△11,047	△52,578
2006年8月31日残高	740,900	707,674	3,870,119	△378	5,318,314	28,767	5,347,082

● 所有者別株主数分布状況 (2006年8月31日現在)



● 所有株式数別株主数分布状況 (2006年8月31日現在)



● 会社概要 (2006年8月31日現在)

商号	株式会社ピクルスコーポレーション (英訳名 PICKLES CORPORATION)
本社所在地	〒359-0037 埼玉県所沢市くすのき台3丁目18番地の3 TEL 04-2998-7771 (代表) FAX 04-2998-7776
設立	1977年(昭和52年)2月17日
資本金	740,900千円
従業員数	176名(男132名/女44名) 上記の他にパートタイマー177名がおります。
事業内容	浅漬・惣菜の製造、販売及び 青果物・漬物等の販売

● 主な事業所 (2006年8月31日現在)

- ・本社 ..... 埼玉県所沢市くすのき台3-18-3
- ・統括事業本部 ..... 埼玉県入間郡三芳町上富1031-1
- ・所沢工場 ..... 埼玉県入間郡三芳町上富1031-1
- ・所沢第2工場 ..... 埼玉県入間郡三芳町上富1031-1
- ・千葉工場 ..... 千葉県八街市文違301
- ・湘南ファクトリー ..... 神奈川県平塚市大神3036-25
- ・大宮ファクトリー ..... 埼玉県北足立郡伊奈町大針字大里1197
- ・宮城ファクトリー ..... 宮城県加美郡加美町字雁原725
- ・福島工場 ..... 福島県安達郡本宮町荒井青田原1-203
- ・中京工場 ..... 愛知県瀬戸市京町2-12
- ・物流管理センター ..... 埼玉県入間郡三芳町上富1031-1

● 主な子会社 (2006年8月31日現在)

- ・株式会社札幌フレスト(北海道)
- ・株式会社彩旬館(大阪府)
- ・株式会社八幡屋(東京都)

● 役員紹介 (2006年8月31日現在)

代表取締役社長	荻野 芳 朗
常務取締役	影山 直 司
常務取締役	宮本 雅 弘
取締役	大羽 邦 明
取締役	藤 沼 茂
取締役	大羽 恭 史
常勤監査役	松野 剛 士
監査役	杉 浦 文 俊
監査役	松野 昭
監査役	杉 江 誠

● 関連会社 (2006年8月31日現在)

- ・株式会社ピクルスコーポレーション旭川(北海道)
- ・株式会社デイリー開発福島(福島県)
- ・株式会社セキグチデイリー(群馬県)
- ・株式会社デイリー開発静岡(静岡県)
- ・株式会社ピクルスコーポレーション長野(長野県)
- ・株式会社デイリー開発広島(広島県)
- ・株式会社デイリー開発福岡(福岡県)

野菜の可能性を訪ねて.....

# Vegetable

第九回

## キャベツ



季節によって異なる食感。  
一年中さまざまななたちで大活躍。

キャベツはアブラナ科の野菜で、原産地はヨーロッパ。日本へは江戸時代に伝えられましたが、当初は観賞用。食用として普及したのは明治になってからです。

キャベツには、大きく分けて、「寒玉」「春玉(サワー系)」の2種類があります。「寒玉」は楕円形で、中まで葉が詰まっており、葉っぱの1枚1枚が固い品種。「春玉(サワー系)」は球に近く、やわらかい葉を持ちます。また、水分も多く含んでおりみずみずしいのが特徴。夏・秋の産地は北海道、長野、群馬。冬・春は愛知、千葉、神奈川県で収穫されます。

漬物としても愛される野菜。  
胃腸にやさしいビタミンUたっぷり。

ここ数年、漬物としての需要が伸びているキャベツ。ピクルスでも、一年中キャベツの漬物を扱っています。浅漬では「春玉」を、姿物は「グリーンボール」のみを使用しています。

キャベツはビタミンCが豊富ですが、さらに特筆すべき栄養素はビタミンUとKです。ビタミンUには、胃壁の粘膜を丈夫にし、胃や十二指腸の潰瘍を改善するはたらきがあります。ビタミンKには、骨にカルシウムが沈着するのを助けるはたらきがあり、骨粗しょう症の予防に効果があります。

聞いて得する!?

### キャベツ選びのポイントと保存法

冬キャベツは緑が濃く、巻きが固くて重いものを。春キャベツは緑が濃く、葉につやがあり巻きがやわらかで弾力があるものを選びます。保存は、いかに水分を保つかポイント。ラップではなくビニール袋で保存を。すぐに使いきれない場合には芯をくりぬき、濡らしたペーパータオルを詰めてから保存すれば2週間は鮮度を保てます。